○とげあいばごけ（刺合葉苔）ノ北限（堀川芳雄）

植物地理學上、熱帶地方ニソノ本據ヲ置ク植物ガ黒潮ソノ他種々ノ原因ニヨツテ日本列島ニ沿ウテ北上シテキルコトハ著ルシイ現象デアル。今ハ只ソノ一例トシテとげあいばごけ (*Chandonanthus hirtellus* MITTEN) ノ分布ニ就イテ述ベル。本種ハ剛强ニシテ美麗ナ黄褐色乃至黄金色ヲ呈シテ分岐シ、葉ハ不同ニ深ク3裂シテ甚ダ密ニ着キ、苔類デハアリナガラ外見ハ寧ロ蘚類ニソツクリデアルノデ長イ間見逃サレ、筆者ガ昭和5年ニ臺灣産ノ標本ニ基イテ發表スルマデハ何人モ我ガ邦土内ニ産スルコトヲ報告シテナカツタ。處デ本種ハ 1815 年以來舊熱帶ノ各地ニ廣ク分布スルコトガ知ラレテ來タ。卽チソノ分布ハ熱帶アフリカ・マダガスカル・ベルボン島・セントトーマス島・セイロン島・東印度・ビルマ・ネパール・支那南部・ルゾン島・ジャバ島・ニューギニア島・サモア島・タヒチ島・オーストラリアニ亘ツテキル。我ガ邦内ニテハ臺灣ノ各地ニ豐産スル（臺灣ノ産地ノミハ Monographia Hepaticarum Australi-Japonicarum, p. 206 ニ既ニ發表シタ）ガ、臺灣以外ノ我ガ邦土内ノ産地ハ未ダ發表セズシテ只筆者採集ノ標本ニ基イテ前記 Monographia ニモ日本隱花植物圖鑑 839 頁ニモ分布ノ處ニ單ニ本州・四國・九州トダケ記シテオイタノデ、玆ニソノ各地方ニ於ケル實際ノ産地トソノ採集年月日トヲ報告シテソノ責務ヲ果スコトトシタイ。

九州： 薩摩ノ紫尾山 (1933 年 7 月 16 日採集)。

四國： 阿波ノ劍山 (1932 年 7 月 15 日採集)； 大龍寺山 (1932 年 3 月 30 日採集)。

本州： 安藝ノ嚴島 (1923 年 3 月 20 日採集)； 紀伊ノ滑谷（ナメラ） (1932 年 8 月 29 日採集)； 相模ノ金時山 (1932 年 3 月 30 日採集)； 下野ノ觀音山 (1931 年 7 月 19 日中村正雄氏採集)。

上記ノ様ニ今日知ル限リニ於テハ下野觀音山ガ本種ノ北限ニ當ルワケデアル。シカシ、種々ノ狀況カラ今日マデ人々ノ採集ヲ免レテキルト考ヘラレ、今後本邦各地ノ原始林下ヲ入念ニ探セバ意外ニ汎ク分布シテキルヤモ知レズ、必ズヤ遠カラズシテ珍品タルノ資格ヲ失フモノナラント筆者ハ信ズル。

○てがたごけ（手形苔）ノ南限（堀川芳雄）

てがたごけ (*Ptilidium pulcherrimum* HAMPE) ハ北半球ノ北方ニズツト分布スルビロードニ似タ感ジノスル外觀ヲモツ。我ガ國ニ於テハ本州ノ各高山ニ知ラレテキテ最近筆者ニヨツテ樺太・濟州島（漢羅山）・朝鮮（白頭山）ニモ産スルコトガ報告サレタ。今度ハ本種ガ更ニ南下シテ四國（阿波劍山・伊豫石鎚山）並ニ九州（豐後久住山）ニモ分布スルコトヲ記シテオク。本種ハソノ分布ガ日本列島ニ沿ウテ玆モ南方マデ下ツテキル一ツノ好例デアル。

○日本列島ニ於ケルこばのちゃうちんごけ（小葉提灯蘚）ノ南限（堀川芳雄）

數多キちゃうちんごけ屬中デすぎノ葉ノヤウナ外觀ヲ呈シテ直立スルこばのちゃうちんごけ一名すぎばちゃうちんごけ (*Mnium microphyllum* DOZY et MOLKENBOER) ハ SIEBOLD